

2026年1月23日

新潟大学

日本酒の蔵元が屋上で稲作を行う事例から 都市の屋上緑化や屋上農園などの活動を 文化的遺産の継承装置として捉え直し

新潟大学経済科学部の石塚千賀子准教授らの研究グループは、都市の屋上緑化や屋上農園などの都市型グリーン活動（Urban Green Initiative: UGI）が、環境保全に加えて「文化的遺産の継承」にも寄与しうることを明らかにしました。280年の歴史をもつ日本酒の蔵元が東京・銀座の屋上で稲作を行う事例を分析した結果、購買への直接効果は限定的でも、学びや協働を通じて社会・文化的価値が生まれ、活動が長期的に持続する仕組みが見えてきました。本成果は国際学術誌「Environmental Development」に掲載されました。

【本研究成果のポイント】

- UGIを「環境対策」に加え「文化の継承装置」として捉え直し、学術的ギャップに応答した。
- 経済的リターンが小さくても、社会・文化的価値（教育・協働・関係形成）が継続を支えることを明らかにした。
- 持続を支える3要因（文化的使命との整合、小さく始めて漸進的に発展、地域・多主体との共創）を提示した。

Ⅰ. 研究の背景

私たちは都市化と気候変動で増える暑さ・洪水などのリスクに直面しています。そのようなリスクに対して、街の中に緑を戦略的に組み込み、温度・空気・水・生態系・ウェルビーイングまで多面的に改善しようという活動（Urban Green Initiative: UGI）が近年注目されています。

都市のUGIには、暑熱緩和・生物多様性・ウェルビーイングなどの効果が注目されてきました。一方で、UGIが「文化的遺産（伝統産業の知識や技術、物語、関係性）」の保全・継承とどう結びつくのかは十分に整理されていません。特に企業主導のUGIは、費用や手間に対して短期的な収益が見えにくく、継続の論理を説明する枠組みが求められていました。

II. 研究の概要

本研究は、白鶴酒造（所在地：兵庫県神戸市）が 2007 年から東京・銀座のビルの屋上で行う稲作を対象に、UGI がどのように長期的に維持され、どのような価値を生み出しているかを質的に検討しました。関係者へのインタビュー等をもとに、分析ソフト NVivo を用いた帰納的分析により、活動の意義づけ、価値創出、継続メカニズムを整理したところ、成熟期（2014 年～現在）では、価値創造と波及効果が最も顕著な推進力として浮上し、食育成果、社会的認知、異業種連携を包含しつつ、先行する二つの推進力が築いた基盤（文化遺産的動機、UGI の展開と維持）を強化することでプロジェクトの長期的な持続可能性を高めていました。

III. 研究の成果

分析の結果、UGI は消費者の購買行動に対して直接的な効果は大きくない一方、社会・文化的価値を通じて活動が持続することが示されました。具体的には、(1) 一般の関心喚起と情報発信、(2) 業界横断の協働やネットワーク形成、(3) 教育的関与といった波及効果が確認されました。さらに、持続を支える主要因として、①企業の文化的使命との整合、②小さく始めて段階的に発展させる漸進性、③地域・多主体との共創（社員の自発的関与や外部パートナーとの連携）を抽出しました。これにより、UGI を「資源生産」ではなく「文化の伝達」として再定義しうることが示されました。「文化的動機→活動の維持発展→価値創出・波及」に分け、そのフェーズごとの優勢が移っていくことを明示しています。

IV. 今後の展開

本研究成果は、UGI の評価軸を環境指標だけに限定せず、文化・教育・関係性といった社会的便益を組み込む必要性を提案します。今後は、他都市・他産業の事例比較を通じた一般化、社会・文化的価値を可視化する指標づくり、自治体・企業・地域が連携して UGI を支える制度設計（助成や協働プラットフォーム等）へ展開することが期待されます。

V. 研究成果の公表

本研究成果は、2025 年 12 月 30 日、国際学術誌「Environmental Development」に掲載されました。

【論文タイトル】 Urban green initiatives and cultural heritage: Insights from a traditional industry case study

【著者】 Chikako Ishizuka, Hiromi Sato

【doi】 10.1016/j.envdev.2025.101421

VI. 謝辞

本研究は、文部科学省科学研究費助成事業（23K1254）の支援を受けて行われました。

本件に関するお問い合わせ先

新潟大学経済科学部

准教授 石塚千賀子（いしづか ちかこ）

E-mail : cishizuka@econ.niigata-u.ac.jp